

前田沙織、日系OGのプロフィールです。

- 1) 派遣国: アルゼンティン
- 2) 16回生(平成13年3月から15年4月)
- 3) 日系日本語学校教師
- 4) カナダで日本語教育に携わったことがきっかけでこの世界にどっぷりと浸かってしまい、ついに念願の南米での生活を満喫してきました。また、どこかへ飛び出したい衝動を今は抑えているところです。



パタゴニア地方のペンギン生息地にて

2年間の活動について

全般

はじめの半年は、学校に慣れること、学生や現地教師の様子を把握することに努めました。

海外で生活することは、初めてではありませんでしたので不安はありませんでしたが、スペイン語は堪能ではなかったのが人とのコミュニケーションの面での苦労は多少ありました。

派遣先がボランティアをどう捉えているかによって、2年の活動の明暗が分かれてくるといえます。ただの労働力として扱われる場合は最悪です。幸い、私の受け入れ先は、日本の新しい考え方、文化も取り入れつつ、現地で失われつつある日本らしさを日本から来た人に直接教わりたい、またせつかく遠くから来てくれるのだからアルゼンチン、ロサリオのいいところを知って帰ってほしいと思っている方々ばかりでしたので大変有意義に過ごすことができました。



小学部の子供達と

期間

前期: 3月中旬から7月1週目 (2週間冬休み)

後期: 7月4週目から11月末 (3ヵ月半夏休み)

夏期: 夏期講座を1ヶ月、全国中学生研修、教師のための研修などが行われま
す

授業: 火から金曜: 成人クラス 1から2コマ(1コマ90分)

土曜: 小学部 3時間、成人クラス 1から2コマ(1コマ120分)

授業以外の活動: 現地教師の指導、教材作成、事務処理(チラシ、新聞など)

アルゼンチンという国、文化的なこと

地球上のすべての自然条件をつめこんだような国である。過去に繁栄した建物などが残る高い文化をもつ国である。よって他の南米の国々と違い高いプライドを持っている。しかし、ラテンの国の特徴はすべて持ち合わせており、人々の生き方に対する考え方にも日本とは対照的な特徴があった。



こどもの日に小学部の子供達と

主なものは次の通り。

細かいことは気にしない、本音をはっきり言う、家族を第一に考える、周りに左右されない自分というものを持っている、女性は女性らしく男性は男性らしくなど。

また、民族の違いによる職業格差はあるが日系人に対しての一定の評価がある。

活動を通して得られたこと

日系移民についての理解

日系の世代間のギャップや若者の日系社会や日本への捉え方を知ることができたこと

日本語学校を通しての日本人会のあり方や、日系人のあり方、アイデンティティの問題などの再考

文化ギャップの体験(日本人(現代の日本の若者):日系2, 3世)

第2次世界大戦の特に沖縄戦の体験者談をたくさん聞くことができたこと

アルゼンチン人の若者の価値観、考え方、日本に対する思いなどを知ることができたこと

児童への外国語指導の体験

南米のほかの国に出かけ、さまざまな人種、民族の生活を見ることができたこと

アンデスに残るインディヘナの人々の生活など

日本についての再考

今後の展望

貴重な体験を多くの人に伝え、海外へ出かけることを奨励、援助できるような活動を目指したい。(写真展示、児童生徒への体験談発表などを予定。)

日本語指導、外国語指導の専門知識の蓄積。